

しておのづから善政無極の祥をとなへ、千山霜むらがりて、轉温厚宣化の徳をあらはす、仁惠に懷ひて四夷八蠻辯を解て來貢、爾此春に候歟、猶々千喜萬悅、御參賀の時を期し入候、あなかしこ、

伏見どのへ御返事

〔故實拾要十五〕攝家略中

改年之吉兆、猶更不可有盡期候、大納言殿へ以使者慶賀申入候、可然様頼入候、穴賢、

月日

書判

——どのへ

年甫の祝儀として、使者を以太刀一腰、馬一疋、これを進候、よろしく披露たのみ入候、慶賀目を追てなほ盡期有べからざる者也、穴賢、

月日

書判

——どのへ

清華家略中

年始之慶賀不可有盡期候、大樹公彌御機嫌克可爲御靜謐、目出度存候、御次手之節、可然頼入候、恐謹言、

月日

諱

諸家消息略中

年始之慶賀、天下泰平、殊以祝著候、兼又々被仰候旨、跪以承訖、王春萬事之喜悅、聖代一統之洪化、言上而餘多候、就中□□令注進候、以此等趣、可有計御沙汰候、誠恐頓首、謹言、

月日

左大臣藤原公賢上

頭中將殿